

令和元年 第 9 回
富山県教育委員会会議録

I 開会及び閉会の日時

令和元年8月22日(木)

開会午後1時00分、閉会午後1時32分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1番 鳥海 清司

2番 山崎 弘一

3番 町野 利道

4番 藤重 佳代子

5番 村上 美也子

教育長 伍嶋 二美男

IV 説明出席者

教育次長 布野 浩久

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 広沢 久也

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 坂林 根則

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 近藤 智久

保健体育課長 東瀬 義人

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(令和元年6月28日開催の令和元年第7回富山県教育委員会会議録)

(令和元年7月12日開催の令和元年第8回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

伍嶋教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 国の登録有形文化財(建造物)の登録について

生涯学習・文化財室長から説明した。

(2) 平成31年3月県内中学校卒業生進路状況調査結果及び平成31年3月県内高等学校卒業生進路状況調査結果について

県立学校課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後1時24分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第25号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。
議案第25号 富山県立山荘指定管理候補者選定委員会委員任命の件

○報告事項について

報告事項（２）関係

〔鳥海委員〕

- ・県内中学校卒業者の進路状況について、高等学校等への進学者が減少して、就職者数は同じで変わらなかったとすると、どこか増加したところがあると思うが、この増加したところというのは「その他」でよいか。

〔県立学校課長〕

- ・四捨五入してはいるが、今ご指摘の通り「その他」の進学も就職もしていない者については、56名ということで前年に比べると多くなっており割合も高くなっている。

〔鳥海委員〕

- ・進学も就職もしないという数が増えている要因は何か。

〔県立学校課長〕

- ・昨年より増えてはいるが、表を見ていただくと平成28年に71名であったということもあり、その変化の要因まではこちらではわからない。

〔鳥海委員〕

- ・例えば、不登校などの問題を抱えている児童が増えたことにより、「その他」が増えているというところがあるのだろうか。わからないということだが、その関係を探しておくのも大事だと思う。

〔県立学校課長〕

- ・いわゆる通信制の学校への進学者数が増えており、やはり不登校経験者等、必ずしもそういう生徒ばかりではないが、そういう選択をしている者が増えていることが考えられる。一方、「その他」というのは通信制の学校にも進学していない生徒なので、今後そういった状況については中学校と連携をとりながら把握してまいりたい。

〔藤重委員〕

- ・「その他」に該当する方というのは、外国人の方がなかなか進学できないという事情で数が増えているということはあるのか。

〔県立学校課長〕

- ・そこまでの分析はない。いわゆる就職も進学もしなかった生徒については例えば家事手伝いであったり、あるいは進学、就職の準備をしている者、また外国の学校に留学した者、そして外国籍の方で母国の方に帰国されたり、あるいは病気療養、場合によってはひきこもりというような方々が「その他」の方に計上されることになっている。

〔村上委員〕

- ・通信制の高校に通われる方が増えており、通信制の高校はいくつかあると思うが、どういう所に進学している方が多いのか。また、中退者数について、全日制、定時制、通信制があるが、特に通信制で高いというような傾向はあるのか。

〔県立学校課長〕

- ・通信制については、県立では雄峰高校に通信制が設置されており、そこで生徒を募集している。その他にも私学の通信制も複数の学校があり、そういう学校も含めて中学校の段階で進路相談をし、決定されていると思っている。また、中退については、通信制に入学した後卒業までに何年かかかるということがあって、入学したので3年ないし4年で卒業できるわけではない。また一方で、全日制や定時制で入学して勉強したが、うまく続かず通信制の方に転編入するというケースもあり、通信制ではそういう多様な生徒を受けて入れているのが現状である。

〔鳥海委員〕

- ・高等学校の卒業生の進路状況について、大学等への進学者が増えて、専修学校等への進学者が減っているというところから、大学等への進学者が増えた理由は県立大学に看護学部ができて、そちらへの進学者が今までの看護専門学校から移ったという説明があったのだが、2の（１）を見ると大学学部は減少してい

ると書いてある。減少ということは県立大の看護学部が出来たことによって大学等が増えたこととは矛盾する感じがする。大学等が増えたというのは大学学部や短期大学本科を除いた、その後ろの通信制や放送大学、特別支援学校の高等部の専攻科などがむしろ増えたためではないかと読める。先ほどからの中学校の話でいくと、高等学校からの進学にあたって不登校であるとか、そういうような人達が普通の大学に通うというのではなくて、通信制や放送大学、特別支援学校の専攻科などに通っているようにも見えるが、どうなのか。

[県立学校課長]

- ・表2の資料をみると、大学の学部については割合でいうと昨年よりも0.1ポイント減少している。国公立の内訳でいうと、国立が0.7ポイントの減、公立が0.7ポイントの増、私立がプラスマイナスゼロというふうになっている。この公立の0.7ポイント増については先ほど申した看護学部の設置の影響があると思っている。一方、国立が0.7ポイント減少した理由は特定できないと思っている。通信制等については、表1の大学等進学者数の下にカッコで示しているが、カッコ内はいわゆる通信、放送大学の進学者を除いた数値である。昨年と比較すると49人の増となっているのが、今回の場合には看護学校の影響が大きいのではないかと思っている。

午後1時32分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。